



第 56 代理事長 山岡 毅

この度、現役会員の皆様方からのご推選を頂き、第 56 代理事長という大任を仰せつかりました南班の山岡 毅でございます。

今日まで歴代の諸先輩方が数々の実績を残してこられた後を引き継ぐ事は、浅学菲才である私にとって大変な重責ですが、お引き受けした以上、会員の皆様方と誠心誠意に協力して、さらなる発展の為に寄与し、努力する所存でございますので、どうか皆様方のご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、我が青年クラブは定年延長の規約が改正されて今年で4年目になり、40 歳代の理事長が 3 年続いております。これからは厄年前後がこの役職の適齢期になって行くのでしょうか…激変する時代の流れと厳しくなる情勢に対応すべく、青年の範囲が広がる事が自身にとって良いか悪いかこの 5 年延長で試されているように思うのは私だけでしょうか？そんな危機感を持って、切磋琢磨するのも今の青年クラブには必要なのかもしれません。

先程、述べました通り定年延長に伴い、最近では新たな方達が役員を担って頂くようになって大分様変わりしてきました。少しずつではありますが若い方々が入会される傾向にあり、次の世代に引き継ぐ事が出来るようになりつつあります。これもひとえに諸先輩方や会員の皆様方のご協力を頂いた賜物だと感謝しております。一方、残念なことに退会される会員様も入会者以上に増える傾向にあるのが現状です。昨今の厳しい社会情勢の中、会員増強は永年の課題であると同時に青年クラブの活性化が不可欠であり、いかにして魅力のある青年クラブにして行く事が私達、現役会員の使命ではないかと思っております。

今年度は「伝統の継承と調和」というテーマを掲げ、古き良き時代の青年クラブを若年層の会員の方々に知って頂き、新たな時代への調和を図って頂く事によって自身が成長する事を望んでいます。「温故知新」と言う四字熟語には昔の事を良く学び、そこから新しい考え方や知識を得て、現在の新しい事態に対処する…の言葉通り、先の見えない不安な世情の中で様々な問題を解決するには繰り返される歴史の中に必ずヒントが隠されていると思います。また、55 年の歴史ある我が青年クラブは二世、三世以上の若手経営者もしくはその卵であるがゆえ、「志がたりない」と良く言われがちであります。そこで失敗を恐れずにチャレンジして行く事が大切であり、失敗する事により多くの事を学び、次に生かす事が出来るはずで、失敗なくして成功はありえないのです。私自身も諸先輩方に嫉妬激励を受けて数多くの事を学び、大変貴重な財産になっております。今回は恩返しするつもりでこの役職を全うし、次世代を担う若い会員様に伝えて行きたいと考えております。

最後になりましたが、創造豊かで魅力のあるあふれる青年クラブの構築を目的とし、役員一同、一致団結し、進んでまいりますので今年一年間、会員の皆様方にはご迷惑をお掛けする事もあるかもしれませんが、多大なるご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

はなはだ、簡単で申し訳ございませんが、これをお持ちまして、理事長就任の挨拶と代えさせていただきます。